

## 需要に基づいた計画的・効率的な生産・流通体系の構築と 消費者への価値訴求プラットフォームの提供に関する開発

### 1 代表機関・研究代表者

株式会社ぐるなび 田村 敏郎

### 2 研究期間：令和4年度～令和6年度（3年間）

### 3 研究目的

プロダクトアウトが主流の農業生産に起因する食品ロスの削減と農業生産性の向上を目指し、需要に基づいた計画的・効率的な生産・流通体系および農産物に対する消費者への価値訴求体系を構築する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 多様な需要に応じ作付するための需給マッチング

時間とともに移り変わる需要（販売）と供給（生産）側両者の収益を最大化するために、透明性、データ秘匿性に配慮した最適化アルゴリズムを開発し、「需要予測・需給マッチング最適化モデル」を構築する。

（農業・食品産業技術総合研究機構、東京工業大学）

#### ② 需要に基づき計画的・効率的に生産するための栽培管理技術

生産側に「求められる量と品質を計画的に栽培する管理方法」を提供するために、環境と栽培管理データから消費時の量と品質を予測可能な「供給量・品質予測モデル」を開発する。

（農業・食品産業技術総合研究機構、愛知県農業総合試験場、岐阜県農業技術センター、新潟県農業総合研究所園芸研究センター）

#### ③ 需要を喚起するBI-Tech

農家の作付・出荷情報を取得・管理し、外部アルゴリズムとの連携により、需要予測に基づく農家への情報還元および農産物の品質情報を消費者に価値訴求するデータプラットフォームを開発する。

（株式会社ぐるなび、有限責任監査法人トーマツ）

### 5 最終目標

本研究開発で構築する「需要予測、需給マッチング最適化モデル」「供給量・品質予測モデル」をAPI化し、WAGRIに実装する。また、JAの直売所をモデルケースとし、需給マッチング、計画達成型栽培管理、売り場の最適化と農産物の品質情報の訴求により、需要予測に基づく販売を通じて、廃棄される農産物を低減する。

### 6 期待される効果・貢献

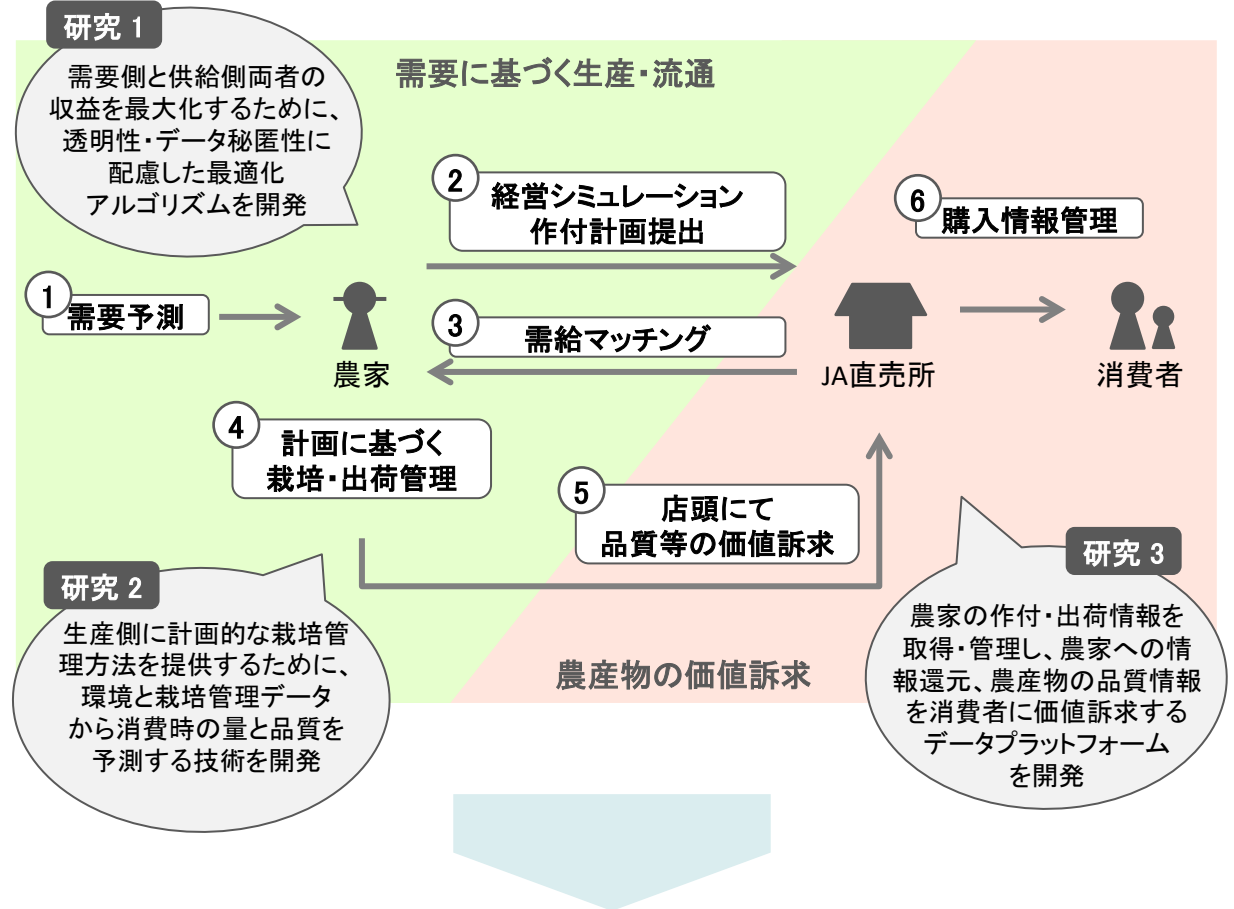
中小規模農家の面的デジタル化と生産性の高い農業の実践に貢献する。また、農産物に様々な情報を付与して販売する仕組みは、消費者の行動変容を促し、エシカル消費市場の拡大にも寄与する。

## 研究目的

プロダクトアウトが主流の農業生産に起因する食品ロスの削減と農業生産性の向上を目指し、**需要に基づいた計画的・効率的な生産・流通体系**および**農産物に対する消費者への価値訴求体系**を構築する。

生産側

消費側



## 最終目標

本研究開発で構築する「需要予測、需給マッチング最適化モデル」「供給量・品質予測モデル」をAPI化し、WAGRIに実装する。また、JAの直売所をモデルケースとし、需給マッチング、計画達成型栽培管理、売り場の最適化と農産物の品質情報の訴求により、**需要予測に基づく販売を通じて、廃棄される農産物を低減**する。

## 効果貢献

**中小規模農家の面的デジタル化と生産性の高い農業の実践に貢献**する。また、農産物に様々な情報を付与して販売する仕組みは、**消費者の行動変容を促し、エシカル消費市場の拡大にも寄与**する。